平成21年度

～建設業に思いを込めて～

作文・ポスター

入　選
作品集

社団法人 愛知県建設業協会

はじめに

建設系高等学校及び建設系専門学校の生徒から「建設業に思いを込めて」と題し、広く生徒の目から見た建設産業に対する魅力を表現する、作文やポスターを募集いたしましたところ、作文で５１点、ポスターで５１点の応募がありました。

どの作品も甲乙つけがたい優秀な作品であり、選考委員の方々にはかなり選考に苦労しておられました。

これらの作品は、生徒達が建設産業に対するイメージや建設産業に対する認識を新たにし、さらなる躍進に期待を込めて応募してくれたものです。

ですから私達は、土木や建築を志向する若者が、社会に貢献する基幹産業の一員に育つ事を心から願うものであります。

また、我々建設産業も彼等の夢を壊すことなく、未来への希望を信じて活躍出来る土壌作りに努めていく所存です。

なお、本来なら全作品を会員皆様に紹介したいのですが、紙面の都合により、佳作までの掲載とさせていただきましたことをご了承ください。

最後に、関係各位には今後ともご協力賜り、建設系高等学校生・建設系専門学校生の育成促進を図りたいと考えております。

何とぞよろしくお願い申し上げます。

平成２２年2月

社団法人 愛知県建設業協会

作品一覧

作文の部 P2

最優秀作

魅力ある現場作り　建設業のイメージアップ戦略
東海工業専門学校金山校　建築工学科1年　杉浦 一輝

優秀作

古きを温め、新しきを知る
愛知県立豊橋工業高等学校　建築科3年　村松 尚哉

建設業の魅力
東海工業専門学校金山校　建築工学科1年　杉山 奈美

人間として成長できる仕事
愛知県立半田工業高等学校　土木科3年　弓矢 祐司

佳　作

つくること
東海工業専門学校金山校　建築工学科1年　水谷 由里

土木へのあこがれ
愛知県立稲沢高等学校　農業土木科2年　伴野 太亮

私が考える建設業のイメージアップ戦略
東海工業専門学校金山校　建築工学科1年　松下 香織

建設業の魅力
東海工業専門学校金山校　大工技術科1年　二宮 将寿

建設の魅力に気付けば
愛知県立猿投農林高等学校　環境デザイン科2年　近藤 実希

ポスターの部 P11

高校生部門

最優秀作

安全な街づくり
愛知県立鶴城丘高等学校　環境デザイン系列3年　石田 梨沙

優秀作

明日を造る建設業
愛知県立愛知工業高等学校　デザイン科3年　森 美樹

トンテンカンテン日本をつくる音
愛知県立愛知工業高等学校　デザイン科3年　武田 志おり

自然と共につくる明日
愛知県立鶴城丘高等学校　環境デザイン系列3年　黒柳 瑞季

佳　作

街の未来を創る仕事
愛知県立愛知工業高等学校　デザイン科3年　平林 美佳

地球に根を張る未来の希望
愛知県立半田工業高等学校　建築科2年　竹内 裕也

ぼくたちの街づくり
愛知県立鶴城丘高等学校　環境デザイン系列3年　榊原 啓太

ぼくらの明日をつくる
愛知県立岡崎工業高等学校　機械デザイン科3年　酒井 亜理紗

でっかい仕事
愛知県立愛知工業高等学校　デザイン科3年　島津 かおり

専門学校生部門

最優秀作

ひらけ新しい未来
あいち造形デザイン専門学校　グラフィックデザイン科1年　橋本 亜美

優秀作

住み良いまちづくり
あいち造形デザイン専門学校　グラフィックデザイン科1年　加藤 祥衣

夢いっぱいの町！！
あいち造形デザイン専門学校　グラフィックデザイン科1年　大石 知美

未来を建てる大仕事
あいち造形デザイン専門学校　グラフィックデザイン科1年　北村 実玖

佳　作

笑顔になる街づくり
あいち造形デザイン専門学校　グラフィックデザイン科1年　村木 沙朱

いまつくっているのは、きみのまち。
あいち造形デザイン専門学校　研究科1年　庭野 雄太

俺に、バトンを。
東海工業専門学校　インテリアデザイン科1年　尾関 美友紀

最優秀作

魅力ある現場作り　建設業のイメージアップ戦略

東海工業専門学校金山校　建築工学科1年　　杉浦 一輝

１位:スポーツ選手（28.6%）、２位:職人（5.7%）、３位:警察官（5.3%）。これは株式会社クラレが2009年度の新小学１年生（男子）を対象に実施した「将来、就きたい職業」に関するアンケート結果だ。結果解説によると２位にランクインした職人の内訳は、大工、左官、木工等とあるのでほぼ建設業と判断して構わないだろう。同様に親の「就かせたい職業」に関するデータも掲載されている。１位:スポーツ選手（16.0%）、２位:公務員（15.8%）、３位:医師（8.0%）。就きたい職業で２位だった職人は５位に入り、5.6%の支持を得ている。注目したいのは、どちらのランキングでも過去２年に比べ職人の占める割合が増加している点である。「就きたい職業」では07年度が4.6%（５位）、08年度が5.0%（５位）。「就かせたい職業」では07年度が3.5%（７位）、08年度が3.7%（７位）。業界のイメージを推し量る上で就職希望職種というのはかなり有用な目安となり得るためこのアンケートを掲載したのだが、こと就職という観点から言えば、少なくとも小学校入学時点においては他業種に水をあけられてはいないことが窺える。

度重なる不祥事、国債を主な財源とした公共工事への批判等、昨今建設業の負の部分がクローズアップされている。加えて建設投資、利益率の減少から、業界全体が新たな人財確保に対して消極的になっている事実も存在する。従来から変わらぬ3K（きつい、汚い、危険）のイメージも相まって徐々に魅力が薄れていったとしても何ら不思議はない。過剰気味ではあっても次代を担う優秀な人財を確保しなければいけない業界としてはこれ程勿体ないことはない。

では少年たちのイメージを壊さずに就職までこぎ着けるには何が必要なのか。現在では各企業が現場周辺の安全管理や清掃を行い、あるいは近隣の小学校の生徒及び保護者を現場に招待し見学会を開催することも少なくない。建設業において一般人が最も身近に存在を感じるのはやはり現場である。それにも拘らず近づき難く、触れる機会もほぼ皆無であったことを考えれば大きな進歩ではある。現に冒頭で取り上げたアンケート結果を見ればその取り組みが実を結んでいると言っても過言ではないだろう。しかしこのような手法はどの業界でも既に取り入れており、何も建設業に限ったことではない。

そもそも根底に流れる業界の負のイメージを払拭しないことには一概にイメージアップと言っても俄に激変することはないのである。これまで見せて来なかったものを見せるだけに留まらず、そこから革新的な変化を遂げなければ現状を一新させることは難しい。

では一体どこをどう改善させればよいのか。最も可能性を感じるのは「人」の魅力である。例えばかつてNHKのTV番組プロジェクトXで取り上げられた霞ヶ関ビルの施工の様子。建設業に生きる男達の姿からは、「こんな風に生きたい」と思わせるに充分な格好良い魅力が溢れていた。自社の宣伝を兼ねるそういった番組をもっと積極的に製作するのも1つの手だ。そして何より、最も身近な存在である現場の作業員一人一人の魅力を磨くことが最も重要なのではないだろうか。企業のイメージは人で決まると言ってもよいだろう。作業員一人一人の佇まいが現場の空気を作り、それを目にする人々のイメージを形成する。どこの業界にも当てはまることである。長髪、茶髪、服装、言葉遣い等、細やかな部分を改善することで全く印象が変わる。入社した新人にはまずそれら社会常識を徹底的に叩き込む研修の受講を義務づけることが望ましい。

職人の世界ではそのような悠長なことに構ってはいられないというような意見もあるだろう。しかし忘れてはならないのはそのような業界の常識が現状を招いたという点だ。先にも述べたように従来のイメージからの脱却を図るには、劇的な変化が必要なのである。

建設業は社会を「つくる」ことが出来る数少ない業種の1つである。あるいは「未来を提案出来る」と言い換えてもよい。社会の軸である経済が循環する以上、現状滞っている建設への投資も近い将来必ず動きが増えて来る。その時に人材難に陥らないためにも現在の負のイメージからの脱却は不可欠である。大きな可能性を持つこの業界の魅力をそのまま認めてもらうためにはまず、曇り切ったガラスを透き通らせなければいけない。

参考文献

株式会社クラレ　アンケート　　http://www.kuraray.co.jp/enquete/occupation/2009/boys.html

優秀作

古きを温め、新しきを知る

愛知県立豊橋工業高等学校　建築科３年　　村松 尚哉

私の将来の夢は、伝統建造物の修復、修繕、保存を行なうことです。

私は幼い頃から建築に興味を持っていました。きっかけは、自宅のリフォームです。リフォームの内容は、姉二人の部屋を作るといった簡単な工事でした。しかし、当時まだ幼く、好奇心旺盛だった私にとっては、業者の方々の仕事一つ一つが物珍しく感じ、毎日食い入るように見つめていました。何日か見ているうちに、一人だけではなく、何人もの人が家に来ていることに気づきました。みんなが助け合い、支え合って仕事をしていることが幼い私にもわかりました。そして、家というのは何人もの人が力を合わせることではじめて完成することができるのだと思いました。私もそのなかの一人になりたい、みんなと一つの建築を作りたいと思うようになり、建築業に興味を持ちました。

特に、伝統建造物にこだわる理由は、小学校六年生の京都、奈良への修学旅行で大きな衝撃を受けたからです。京都、奈良といえばもちろん東大寺や清水寺、二条城に三十三間堂、その他にもさまざまな歴史的建造物があります。特に、私は建築に興味を持っていただけに、歴史的建造物の名前をよく知っていました。ぜひ実物をこの目でみたいと思っていました。そして、これらの歴史的建造物を見学してまわった時に、近代的な建物にはない衝撃が私の中に残りました。

歴史的建造物にはまず、雰囲気というか風格というか、存在するだけで他を圧倒するような何か重たいプレッシャーを感じました。このプレッシャーが、何百年時を過してきた建物の威厳ではないかと思います。さらに、このような歴史的建造物がなぜ今も昔も変わらずに残り続けているのかを考えました。先人たちの「智恵」が一番大きな理由だと思います。先人たちは、試行錯誤を繰り返しながら、何百年倒壊しないような木の組み方、柱の配置の仕方などより良い建て方を見つけたのではないだろうか。そして、その工夫があったからこそ、今も昔も変わらない姿でこの建物たちはあるのではないでしょうか。そして、先人たちの思いを受け継ぎ、守っている人たちがいるから私たちが昔の姿のままの建物を見ることができるのではないでしょうか。

当時より数段技術力が上がった今なら、何百年どころか、何千年と残り続ける建造物を建てることが可能だと思います。なぜなら、「温故知新」という四字熟語にもあるように、経験のない新しいことをはじめるためには、過去を充分学ぶことで智恵を得ることができると思うからです。そして、先人たちが伝えたことを次の世代が受け継ぎ、その繰り返しが重なって今の技術があるのだと思います。だからこそ、先人たちの「智恵」がたくさん詰まっている歴史的建造物を残していかなければならない義務が私たち建築に関わる者にはあると思います。

私は高校卒業後、夢を叶えるために大学への進学を希望しています。大学では、主に伝統構造学を学びたいと思っていますがそれだけではなく、構造学やデザイン学など建築学全般の知識を幅広く学び、古い中にも新しさを感じるような建築物が作れるようになりたいと思っています。今私は工業高校の建築科で学んでいます。私の高校では特に、手書きの製図に力が入っているので、製図を書く力にはとても自信を持っています。そして、今私は卒業設計に取り組んでいます。この卒業設計は、自分でどんな建物を作りたいかというところから始まり、プランニングや設計、製図など半年ほどかけて全て自分一人だけで最後まで作ります。この卒業設計を完成することが出来たのならば、とても建築に関する力が身についていると思います。この経験を大学でも生かしていくことでさらに良い作品が作れると思います。そして、最終的に私の夢を叶えるための大きな財産になるでしょう。

優秀作

建設業の魅力

東海工業専門学校金山校　建築工学科1年　　杉山 奈美

近頃、建設業に魅力を感じない者が増えてきたと聞きます。このことについて私は建設業について魅力を感じないのではなく、マイナスイメージを強調しすぎているせいなのではないかと考えます。建設業のイメージでよく挙げられるのがこの言葉。そう、「3K」です。3Kとは「キツイ」・「キタナイ」・「キケン」のこと。こうして三つの意味を並べてみるとマイナスイメージの言葉ばかりです。確かに建設業といえば外での作業が主ですから重労働は当たり前、雨の日などは泥まみれになりながらも作業することも少なくはないでしょう。それに私たち人間の大きさからは考えられないような大きなものをつくっているのですから機械を使用したり、高い所で作業をすることもあり安全とは言い難い職業です。けれども現在建設業で活躍する人々は何故その「3K」と呼ばれる環境で仕事を続けられるのでしょうか。私は「3K」を超えた何かを得られるからだと思います。

私は現在専門学校で建築について学んでいます。そもそも私が建築について学ぼうと思ったのは高校生の時。進学するにあたって自分は何に興味を持っているかと考えたのが最初です。中学生の頃に始めたボランティアの影響で人とのふれあいについて関心を持っていた私は、漠然と人と接する機会の多い職業に就きたいと考えており、人と接する職業といっても幅が広すぎるので大学を検索できるHPの学部一覧を利用して選んだのが建築学部です。高校は普通科の学校だったので建築についての知識は全くありませんでしたが建物を見るのが好きだったので興味深く思い、建築関係の学校への進学を決めました。

初めは私も汚れた作業服を着た男の人達がたくさんいるような職場のイメージがあったので3Kと同じようなイメージを持っていましたが専門学校に入学してから学校で建築について学ぶに連れて、何もない状態から建物をつくるというこの世界が魅力的に思えてきました。

まず、建築という行為は一人で行うことはできません。各々の専門家達が作業をこなしていき、その作業の連携によってひとつのものができあがるのです。この世界について無知すぎた私は設計士と大工がいれば家は建つものだと思っていました。しかしその家に住む家族を始め、家を設計する人、現場を管理する人、家を建てる人、家の内装を作る人など一軒の家を建てるのには私が想像していた以上のたくさんの人々が関わり、その結果ひとつの建物ができあがることを知り、その規模の大きさに感動しました。

そして特に魅力的に思えたのはできたものが長期間残るというところです。家を建てるという行為は人生に何回も行う行為ではないし、学校やビル、建設業でいうならダムなどで言えば尚更です。私はこの業種以外の職業で地図に残る職業は思いつきません。また、地図に残るということはたくさんの人々の目にとまるということではないでしょうか。自分の携わった建物が自分の家族、もしかしたら子孫によって語り継がれることになるかもしれないと思うとそれができてしまうこの業種はほかの職業にはない魅力を持っていると思います。

世間の目は悪いところにばかり目がいき、その結果により「3K」という言葉が生まれました。しかし私はこの業種は夢に溢れたとても魅力的な職業だと思います。このなくてはならない職業の悪いイメージを良いものにして建設業を活性化させるためにも建設業の魅力をたくさんの人々に伝えるべきなのではないでしょうか。数年後私がこの業種に就いたら建設業の魅力を前面に押し出し、イメージアップに努めたいです。

優秀作

人間として成長できる仕事

愛知県立半田工業高等学校　土木科３年　　弓矢 祐司

僕が、半田工業高校建築・土木科への進学を決めたのは、兄が建築科に在学していたからという単純な理由でした。製図が苦手だったし、建築科へ進んだ兄が製図で苦労しているのを見て、土木科の方へ進みました。最初、土木と聞くと外で土を掘ったりするというイメージが強かったのですが、勉強をしていくと、思った以上に幅広く、しかも、奥の深いものだと思うようになりました。

１年生の春休みに毎年宿題が出ます。工事現場を見て、写真を取ってくるというものです。どんな仕事をしていて、働いている人はどんな感じか、どんな重機を使っていたか、レポート用紙にまとめるものです。その時は、忙しく働いていて大変そうだなあぐらいにしか感じられませんでした。でも、今では『レベルやトランシットなどの測量を正確にしないと大変だ。コンクリートを作って、作ったものの強度試験も必要だし、安全にも気を配らなければならない。雨が降ると仕事が進められないし、期限までに完成しないと違約金を払わなければならない。工程管理も大変だっただろうなあ。』といろんなことを思うようになりました。

学校での実習の授業は、外で行なうことが多く、夏は炎天下のもと、冬は寒い風の中での作業が多く大変でした。それが辛い時もありましたが、精神的に鍛えられ、作業を終えた時の達成感は辛さを忘れるくらいありました。また、グループの人達と協力して行なうので、友達との仲が良くなり、大変なことでも楽しく出来ました。

そして、実習や座学で色んなことを学んでいく中で、普段何気なく使っている道路や橋、鉄道など私たちの生活を支えているものは全て土木工事によって造られていることが分かるようになりました。土木の仕事の大切さが理解できるようになりました。

こうして、土木の仕事に興味を持つようになった２年の３学期頃、３年の５月に開催される『愛知県総合競技大会測量競技の部』の選手募集がありました。全ての土木工事の基本、スタートは測量だと聞いていたし、正確に測るにはやはり技術が必要だと言われていたので、実習でも同じ班であった友人３人とチャレンジすることにしました。この大会は３人１組で行なわれます。協力して正確に早く出来るように、授業後や春休みに毎日練習しました。勝てるかという不安は結果発表までずっとありました。結果は２位のチームに１２秒差で優勝でした。これで半田工業高校は４連覇を達成しました。責任を果たせたという安堵感のほかに、３人で協力して勝った嬉しさには、一人では感じられない深い喜びがありました。

土木のイメージは正直良くありません。天候に影響されるし、夏は暑く冬は寒い屋外で体を動かし、真黒な顔になってする仕事です。格好よくは見られていません。また公共事業が悪いというニュースや新聞記事もよく見ます。一般の人のイメージは悪い所ばかりだと思います。僕も半田工業に入って土木の勉強をする前は、全く同じイメージしかありませんでした。でも半田工業高校で学ぶ中で、たくさんの人達が安全で快適に暮らせる街作りを担っているのは、土木の仕事に携わっている人達です。生活の土台を支えているのは土木であり、必要不可欠な職業です。しかも経験を積む中で丈夫な身体、逞しい精神力、強い責任感など人間として大切なことがたくさん学べる職業です。人間として成長できる職業なんです。

僕は土木のことを学んできてイメージが全く変わりました。とても格好良く、尊敬できる仕事だと思うようになりました。今、将来の進路を決める大事な時期ですが、僕は人々の暮らしを支える土木の仕事にこれからもずっと携わりたいと考え、公務員を目指すことを決心しました。極めて厳しく難しい選択で、測量競技会以上の不安があります。でも今まで経験した事、学んだ事を活かすために、全力でチャレンジする覚悟です。最後まであきらめずに。

佳　作

つくること

東海工業専門学校金山校　建築工学科1年　　水谷 由里

何かをつくり出すということは難しいけど、とても素敵なことだと思います。私は小さい頃から工作や料理などつくることがとても好きでした。好きな科目は美術・技術・家庭・数学です。

美術は一番自由につくることができます。色も形もやり方も人の数だけあります。答えなんてないし、また完成もないと思います。時間をかければどれだけでもつくれるし、他人は完成に見えても自分はまだまだだと思うかもしれないし、未完成が完成だという場合もあります。すべてが自由です。

技術は形があるのが好きです。木はのこぎり引けば切断されるし、やすりをかければかけるほどつるつるになります。鉄は熱すればやわらかくなります。それがとてもおもしろいと思います。

家庭はとても身近にあり、人とかかわります。料理をして周りが喜んでくれて自分もうれしくなります。それが意欲になります。認めてもらえるのがうれしいです。

数学はあまり関係ないようにおもいますが、導かれる答えは一つしかないのに過程はたくさん、考える人考える人によって様々な回答がつくられます。似通っていたとしても全く同じ回答にはなかなかなりません。特に問題が難しくなればなるほど様々です。求められているやり方とは違うとわかっていながら、自己流でやっていって答えが出た瞬間はとてもうれしいです。と、いっても正しいやり方が見えたときは当然そっちで解きます。自己流は最終手段です。

そしてすべてにおいて、時間をかければかけるほど、思いがあればあるほど、つくり出したものには愛着がわきます。自分の中で生きています。それはとてもうれしいことです。

その先に見えたのが建築でした。建築はこれらのいろいろな要素を持っています。だから私にとってとても魅力的なのです。

では、その魅力を知ってもらうにはどうすればよいのか。

私が将来は建築関係の仕事に就きたいというと周りの人は大抵“すごい”“かっこいい”などと言ってくれます。自分がなる気はなくても好感は抱いているのだと思います。

建築というのは漠然としすぎていて具体的に何なのかよくわからないのです。ですが、建築物はとても身近で必要なものなのです。ただ、つくる過程はなぞに包まれています。小さい頃から工事中のシートの中は未知の世界でした、近づくと母に怒られました。今でも未知の世界です。なんとかして中を見られないのかと思います。止まっているところではなく、今まさにつくっているところを自分の目で生のまま。

資料に書いてあった「仮囲いに窓をつくる」という案はいいなと思いました。少しでも中が見えると未知ではなくなります。それと「ただいま未来、作成中」というキャッチフレーズにはとても好感を持ちました。とってもかっこいいです。未来をつくるなんて夢にあふれていて素敵です。工事中なんて現実的な表現より断然いいと思います。

次の未来をつくっていく子供たちに理解してもらうためには、まず興味を持ってもらうことが必要です。説明をしてもつまらないだけです。自分の目でみて、触って体験することが大切です。そのうえで体験試乗はとても効果的だと思います。また３Ｄの設計や空間づくりなどのソフトをもっと手軽に体験できるようになればいいなと思います。あれは簡単だし、楽しかったです。

建築は身近にあるのに普通に生きているとなかなか触れることのできない職種だと思います。きっとふれあうことで興味をもっとたくさんの人たちにもってもらうことができると思います。

そして建築を通してつくる魅力を、つくることを通して建築の魅力をしってもらえればうれしいです。

私も未来をつくりたいです。

佳　作

土木へのあこがれ

愛知県立稲沢高等学校　農業土木科２年　　伴野 太亮

僕の父は、土木関係の仕事に従事しています。父は、小さい僕をよく仕事場へ連れて行ってくれました。そこでよくブルドーザーやショベルカーなど施工機械のおもちゃをもらいました。小さかった僕はそのおもちゃがどんな働きをする機械なのか知りませんでしたが、とてもかっこよく思い、今でも大切に持っています。そして、そこで働いている人たちの日に焼けた優しい笑顔は今でもよく覚えています。

僕は、将来、土木関係の仕事に就きたいと考え、稲沢高校の農業土木科で勉強しています。中学生の時、進路について迷っていた僕を父は携わっている工事現場へ久しぶりに連れて行ってくれました。そこは高層ビルを造っている現場でした。僕はそのビルを間近で見てその大きさに圧倒され「でかい！」と思わず叫んでしまいました。進路に迷っていた僕はそこで働く人に「どうしてこの仕事に就いているのですか？」と尋ねました。すると作業員の方は「この仕事は誰かの役に立つからだよ。」と教えてくれました。「土木は誰かの役に立つ仕事」この言葉が僕の迷いを吹き飛ばしてくれました。「将来は土木の仕事に就きたい。」「誰かの役に立ちたい。」そう考え稲沢高校の農業土木科に入学しました。

入学して1年半が過ぎようとしています。1年生では、現場見学会や校外学習で高架橋の建設現場やダムなどを見学し、土木の仕事のスケールの大きさに感動し、土木は「地図に残る仕事」だと実感しました。「こんな構造物を造る仕事に就きたい。」と土木の仕事に対するあこがれがより強くなりました。今、僕は農業クラブの測量競技会で全国大会に出場するため測量の練習に励んでいます。毎年、稲沢高校農業土木科はこの競技で全国大会に進んでいます。しかし、今年は県大会で敗退し全国大会に出場することができませんでした。原因は小さなミスでした。ちょっとした目盛の読み取り間違いで誤差が大きくなり、大きく減点をされてしまいました。３年生の先輩とチームを組んで毎日練習していましたが、緊張と暑さで、本番では正確な作業ができなかったと思います。稲沢高校の農業土木科は毎年の様に全国大会に出場しているので今年も出場できると、自分も全国大会に行けるとどこかに甘い考えがあったのだと思います。僕は、この経験で小さな気のゆるみは大きな失敗につながること、土木作業は正確に実施することがいかに大切であるかを学びました。そして来年は必ず全国大会に出場できるようにたくさん練習をして測量の技術を上げようと心に誓いました。

最近、学校の授業で先生が「土木の仕事は『３Ｋ』といわれているけれど・・・。」と話をしてくれました。「危険」「汚い」「きつい」の頭文字を取って３Ｋというのだそうです。「土木はかっこいい」と土木の仕事にあこがれていた僕はそれまで土木の仕事が世間からそんなに悪いイメージを持たれているとは知りませんでした。「本当だろうか」と新聞やテレビを気をつけて見てみると「税金の無駄遣い」「ダムはムダ」などと「土木は悪者」といわんばかりのニュースや記事が多く見られました。このことを父に話すと、「おまえが日頃何気なく使っている道路や橋は誰が造ったか考えてみろ。それは必要無いものか？」と話してくれました。道路や橋は僕たちの生活の中にごく当たり前のように存在し、何気なく利用しています。ダムの水も当たり前のように水道水として使っています。僕自身も毎日通学で使う道路に対して感謝をしたことはありません。しかし、ダムや道路や橋が無かったら僕たちの生活はどうなるか、考えると怖くなります。「これが誰かの役に立つことなんだ。」「土木は社会の縁の下の力持ちなんだ。」と父の言葉を聞き改めてそう思いました。ボランティア活動などは、直接「ありがとう」と言うことばを聞くことができます。しかし、道路やダムを造っても直接感謝されることは少ないかもしれません。しかし土木の仕事に関わることで、「誰かの生活が便利になる」「誰かの役に立つ」ことができると思います。僕はこれから稲沢高校でもっと土木の勉強をし、測量などの技術を向上させ、将来は父と一緒に肩を並べて仕事ができるように頑張りたいと思います。

佳　作

私が考える建設業のイメージアップ戦略

東海工業専門学校金山校　建築工学科1年　　松下 香織

「建物を建てること。」これだけでいろんな事があると思います。例えば、依頼主がどう使いたいか、どうしたいか、造る建築家の思いなど、あげればきりがありません。

私は、建設業の魅力は四つあります。

一つめは、建設の大型重機などの子供の関心がある機械があること。

クレーンやブルドーザーなど玩具があって、機械が好きな子供に対して魅力があると思います。

二つめは、木材やコンクリートや鉄筋などの材料に手を加え、部品を組み立てて新たなものを生み出していくことです。

私は、引っ越したときに自分の家が建てられていくのを見学していました。家の工法は、木造軸組み工法でした。柱や梁や筋かいだけだったのが、次に見に来たときには壁や床がありました。その時に「あんなスカスカだったものがこんな風になったんだ。」とびっくりしたからです。

三つめは、同じ建設するもの、例えば「住宅」を考えても似て非なるものができることだと思います。

それはル・コルビュジェや安藤忠雄やフランク・ロイド・ライトなどの有名な建築家でも、まだ資格も持っていない学生の私たちでも言えることだと思います。建築家や私たち、それぞれの独特のやり方というのがあると思うからです。

四つめは、それまでの歴史がつまっていることです。

建てられた建築物は、その時代の様式や、どんな材料を使ったか、場所の風土、そこで生活した人の気持ち、そして建てる人たちの思いがあふれていると思います。

そう感じた建物は「聖ピエトロ大聖堂」と「モン・サン・ミッシェル」です。この二つの建築物は、小さな時にテレビの特集でしりました。これらの建物は、とても歴史も古く私が生まれる前からあったと考えるととても不思議な気持ちになりました。そんな存在感に小さな時の私はその建物に魅了されてしまいました。

私はそのふたつの中で特に聖ピエトロ大聖堂が大好きです。この建築物は、バチカンにあるカトリック教の総本山です。北に隣接してローマ教皇の住むバチカン宮殿、バチカン美術館があり、国全体が「バチカン市国」としてユネスコの世界遺産に登録されているそうです。建築様式はバシリカ式で、聖堂はルネサンスからバロックの時期にかけて巨匠たちが主任建築家を引き継いで建設したものです。内部の彫刻や祭壇やモザイク画やモニュメントなどの装飾もあわせると、建築物というよりひとつの大きな芸術品のように思えるところも気に入っている理由のひとつです。また、キリスト教会建築としては世界最大級の大きさで、一度は行ってみたい場所です。

東海工業に入って勉強したことによって、たったひとつの住宅を建てるだけにでも設計や、土工事、基礎作り、柱を建てて壁や床を張り、衛生設備を作ってと、とても大変なんだと知りました。私が今住んでいる住宅でも建てるのに約一年かかったので、この大聖堂を造るのには相当な時間がかかったと思います。それに関わった人はたくさんいると思います。その人たちはもう亡くなっていて建物だけがこの何百年も残っています。それは少し寂しい気もします。でも、この建物はその建設に関わった人たちの「生きた証」みたいになるんじゃないでしょうか。そう考えると、建設というものは「現実的」なものでありますが、「情緒的」でもあり「空想的」でもあると感じました。後世に残るというのは、建設に関わった人たちの「生きた証」も残ると私は考えました。

私もいつかこんな後世に残るような建築物をデザインまたは建てたいです。そして、誰かの心を奮わせて何かを伝えられればいいなと思いました。

佳　作

建設業の魅力

東海工業専門学校金山校　大工技術科1年　　二宮 将寿

建設業とはなにか。一般的に建設業といったら、夏のとても暑い中や冬の寒い中もずっと外で作業して汗やほこり、泥などでドロドロになって服をよごしていたりしてとても不潔なイメージをもたれていたり、道路の工事をするため道をふさいでしまっていたら邪魔者扱いされたりとあまり良いイメージを持たれていないのが現実だと思う。実際自分もそう思っていたこともあった。しかし、そこまでしなくてはならない理由があるとしたらどうでしょうか。

先日、静岡県の駿河湾を震源として起きた地震をご存知だと思います。それが原因として東名高速道路の路肩の一部区間が崩落してしまいました。その復旧工事に5日という日数がかかったんですが、それをどう捉えますか。僕はあれだけの復旧工事を５日で終わらせた日本の建設業の技術とそれに携わった人々の努力にはとても感心しました。あの技術と努力があってこそ世の中は成り立っているのだなと思いました。

僕が建設業の世界を目指すきっかけになったのは自宅が建材屋だったというのも多少ありましたが、幼い頃よくハウジングセンターに連れて行ってもらっていろんな家を見学して家に興味を持ったからだと思います。そしていつしか大工さんになって家を建てたいという夢を持つようになっていました。普通科の高校を卒業した自分ですが今は東海工業専門学校の大工技術科で建築の知識と大工としての技術を学んで磨いています。正直、今までも自分が本当になれるのだろうかという不安はあります。全く知らない言葉や用語ばかりで戸惑ってしまうことがたびたびあるけれど先生方はしっかり丁寧に教えてくださるし、週に一度ある大工実習の授業の日は毎日楽しみです。今はまだまだ未熟者で棟梁のように上手に切ったり掘ったり、そして手際よく早く正確な作業を出来ないが、それでも徐々に作業が早くなってきているので自分でも力をつけてきているなという実感があり、それを励みにまたもっと頑張れる気持ちになります。その他にも、製図の授業もあり、製図板を使って本格的な図面の練習もしています。こちらもとても細かな作業が多く比較的大雑把な僕は汚い図面に仕上がってしまいがちだけれども、仕上がった時の達成感には、しっかりやりきった感じが含まれ気持ちがよいものです。これから何十枚、何百枚と図面を描くうちに手際よく要領よく素早いきれいな図面を描けるようになっていくよう頑張っていきます。何かが完成したりした時の達成感にはとても気持ちがよいものがありますよね。

実際、自分達の何百倍、何千倍もの大きさのある家や学校、病院や競技場などとても巨大なものが造り生み出されていくのってなんだか凄くわくわくしませんか？何もない状態から何かが創造されるのってとても魅力をかんじませんか？そこが建設業のよさ、魅力だと思います。自分もその凄さに魅了されました。人生で一番高額の買い物。それが住宅だと思います。ほとんどの人が一生に一つしか買えないものだと思います。そんなすべての人の夢。それを手がける仕事。とてもやりがいのある仕事ではありませんか。よりよい住居や生活をサポートするのも建設業の役割だと思います。家などだけでなく学校、病院、橋、線路、駅、道路。それだけでなく、人々の生活環境、それらすべてを手がけるそんな建設業に魅力を感じ大きな期待を感じ自分もその世界に携わりたいのでもっと、努力をして自分に力をつけ、世界中のすべての人が住みやすく幸せを感じられるそんな町作りをしていけるといいなと心から思います。

最後に、それから建設業の世界に一歩踏み込もうとしている後輩達の鑑になれるよう一人前の立派な大工・建築士になってこれからの建設業界を引っ張っていく一人になりたいと思います。

佳　作

建設の魅力に気付けば

愛知県立猿投農林高等学校　環境デザイン科２年　　近藤 実希

猿投農林高校に入学して、1年以上が過ぎました。猿投農林に進学を決めた理由は、自宅の庭の樹木を剪定できるようになって、将来は自分の思い通りの庭を作ってみたいと思ったからです。ですから、２年生になったら、造園コースを選択し、造園について詳しく学びたいと思っていました。しかし、2年生になった今、建設コースを選択し、建設について学んでいます。

１年生では、造園系と建設系について同じくらいの時間学びました。1年の初めのうちは、造園の魅力に惹かれ造園の仕事に就くのもいいかなと思いました。しかし、建設系の勉強が進むにつれて、建設関係への興味が増してきました。そして、１２月のコース選択時には、建設について深く学びたいという気持ちのほうが大きく、建設コースを選択希望しました。

２年生に進級し、土木基礎力学、土木施工、農業土木設計など、建設系の科目が増えました。授業の内容はとても面白いです。しかし、十分に理解できなかったり、計算が難しかったりで、苦労しています。テストで赤点を取ってしまったこともありました。でも、理解ができると授業がすごく楽しくなります。建設の魅力がどんどん大きくなってきています。

進路についても、建設関係の仕事に就きたいと思っています。橋や水路の設計をしてみたいです。地味な仕事かもしれませんが、社会に貢献できる仕事です。農業土木設計の授業でＣＡＤを学んでいるのですが、これを使って実際に橋や水路などの設計をしてみたいと思います。興味のある建設関係の仕事に就いて、仕事が楽しいと思えるようになりたいです。

今は、漠然とそう思っていますが、授業で橋について学習し、橋にもとても魅力を感じます。種類も様々で、いろんな橋を実際に見て、渡ってみたいです。環境デザイン科の建設コースにいるのだから少しでも多くの構造物に触れて、学習の材料にしたいです。

今、行ってみたいのは兵庫県と徳島県を結ぶ大鳴門橋と兵庫県の明石海峡大橋です。どちらも吊り橋ですが、明石海峡は世界最長を誇る吊り橋です。そんな世界的長さの橋を渡ってみたいです。

中学２年生の時、自然教室で長野県の黒部ダムの見学に行きました。中学校の授業で自然教室に行く前の予習ということで、ＮＨＫのプロジェクトXという番組の黒部ダムを作った人たちの映像を何度も見ました。最近では、ドラマ化されテレビでやっていました。今年になって、その番組の内容を思い出しましたが、中学の時では分からなかったことが、今建設について学んでいる中で理解できたことがあります。昔は、今と違って機械がほとんどなくて全て手作業でした。手作業で、あれだけのダムを作ったということを知った今、黒部ダムへ行って放水を見たら、３年前では感じられなかったことが感じられるような気がします。

私は、私たちが住んでいるこの街はすべて造園業や建設業の人の手で作り上げられていると言っても過言ではないと思います。造園の仕事に就いている人がいるから、公園があり、庭園があり、心癒せる空間があるのです。建設の仕事に就いている人がいるから、家があり、学校があり、道路があり、鉄道があります。とても社会に貢献している仕事だと思います。

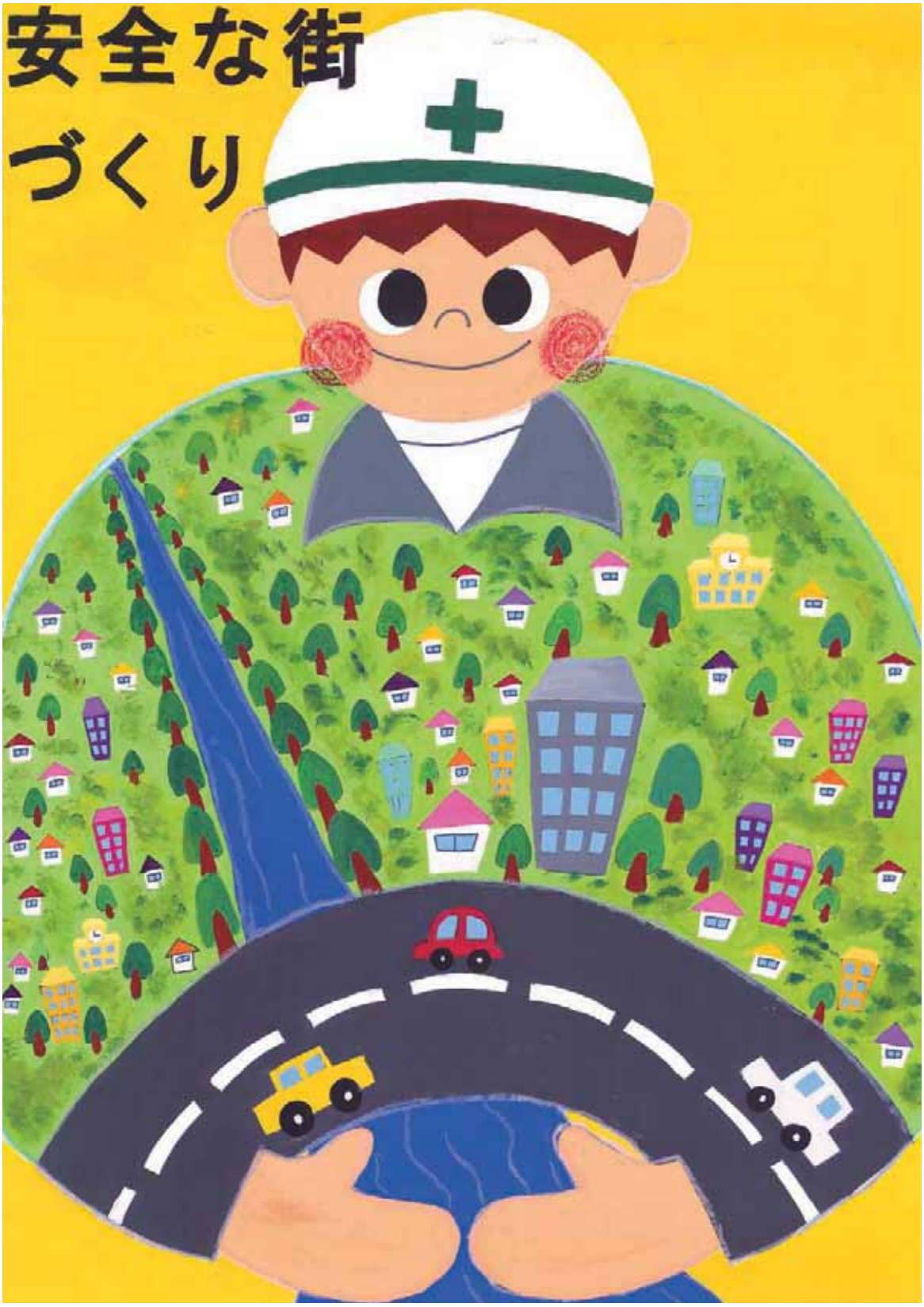
私も２年生が半分終わろうとしています。建設業に就くことができれば、今自分が学んでいることを最大限に発揮したいと思っています。これからも、さらに学習に力を入れていきたいです。

建設や造園の魅力は、猿投農林に入らないと気づくことができなかったと思います。建設や造園も、街を明るくし、人々の生活に貢献しています。私も建設業で、人々の暮らしを明るくする仕事がしたいと思います。

最優秀作

安全な街づくり

愛知県立鶴城丘高等学校　環境デザイン系列３年　　石田 梨沙



優秀作

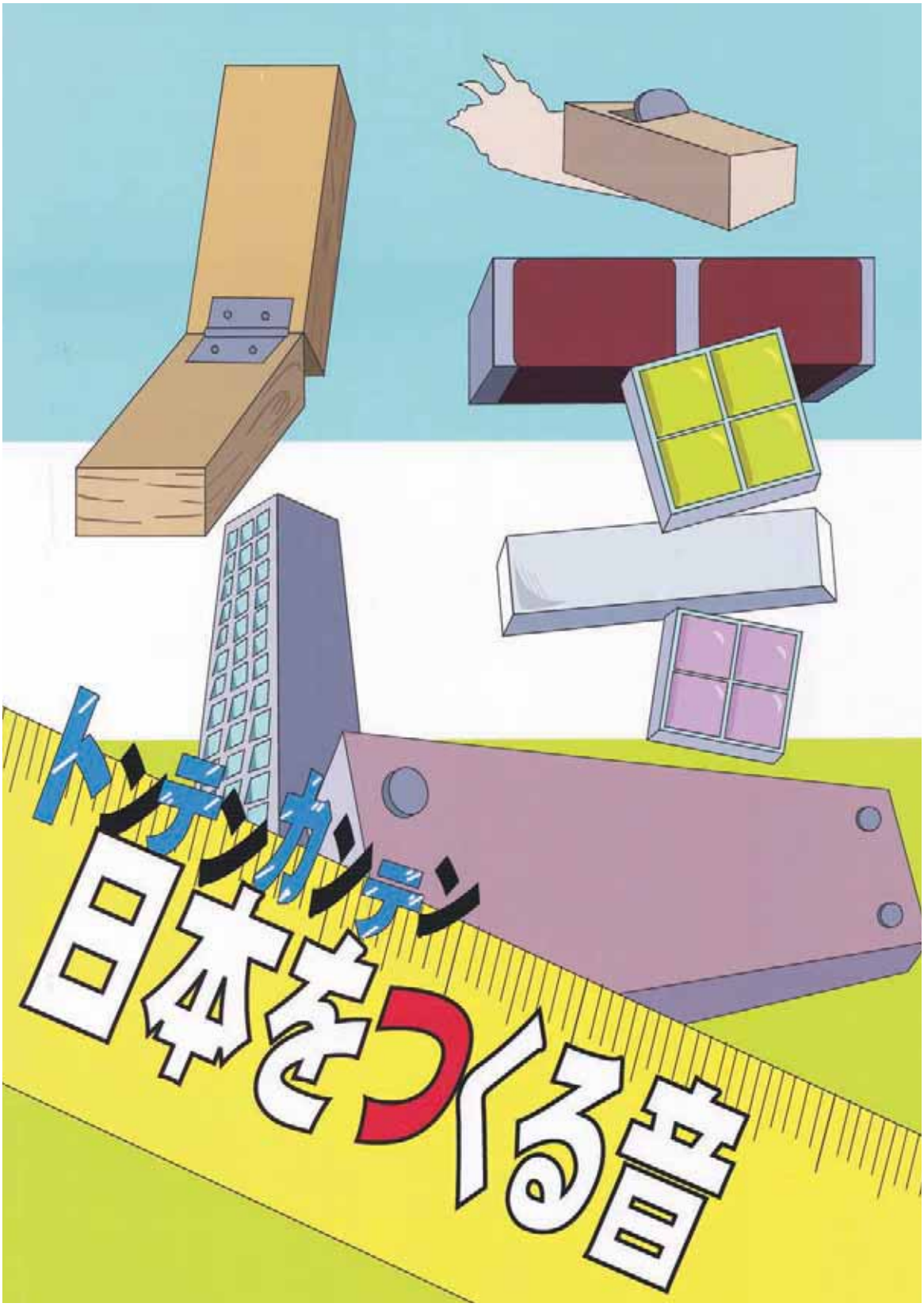
明日を造る建設業

愛知県立愛知工業高等学校　デザイン科３年　　森 美樹

優秀作

トンテンカンテン日本をつくる音

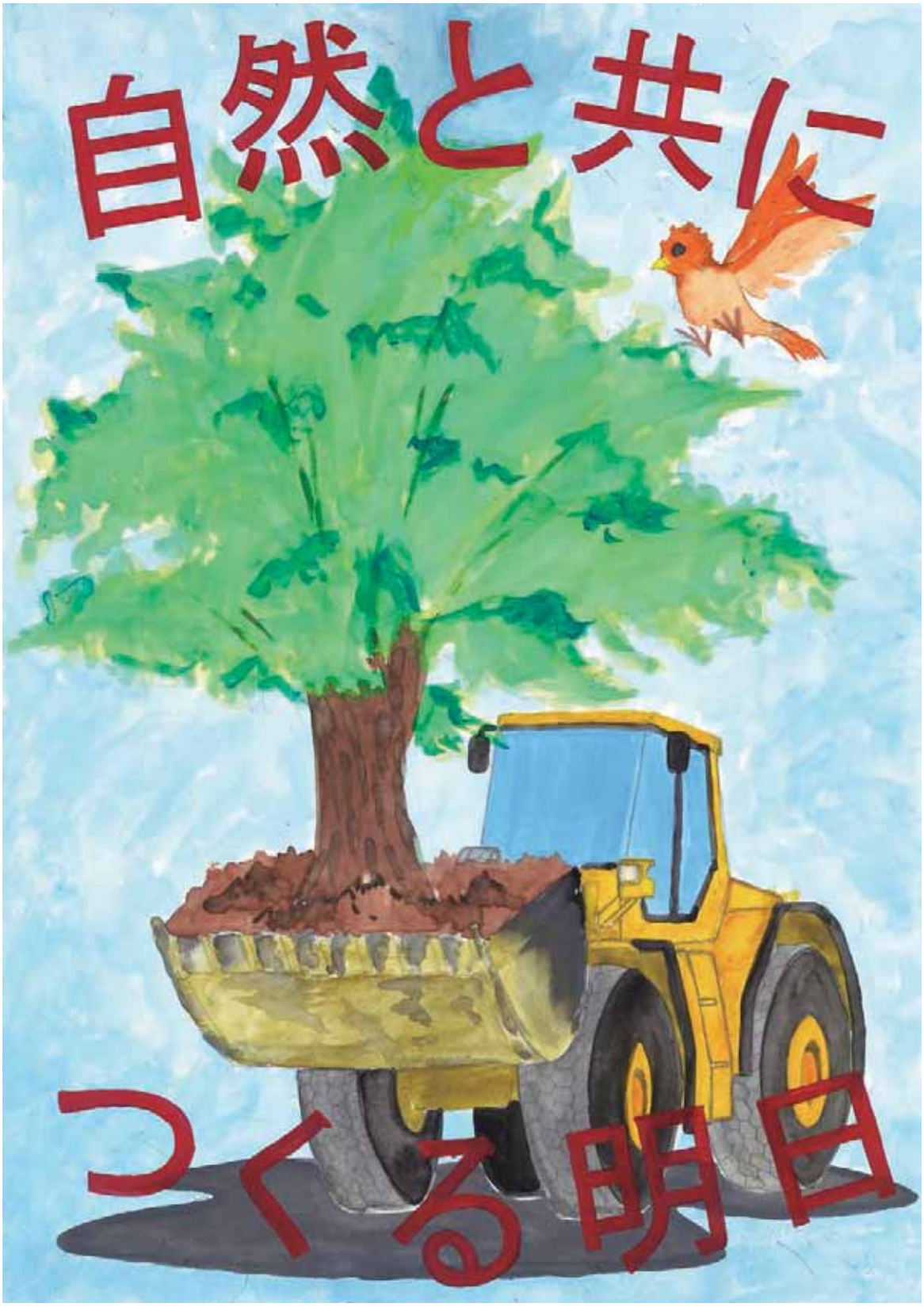
愛知県立愛知工業高等学校　デザイン科３年　　武田 志おり



優秀作

自然と共につくる明日

愛知県立鶴城丘高等学校　環境デザイン系列３年　　黒柳 瑞季



佳　作

街の未来を創る仕事

愛知県立愛知工業高等学校　デザイン科３年　　平林 美佳

佳　作

地球に根を張る未来の希望

愛知県立半田工業高等学校　建築科２年　　竹内 裕也

佳　作

ぼくたちの街づくり

愛知県立鶴城丘高等学校　環境デザイン系列３年　榊原 啓太

佳　作

ぼくらの明日をつくる

愛知県立岡崎工業高等学校　機械デザイン科３年　　酒井 亜理紗

佳　作

でっかい仕事

愛知県立愛知工業高等学校　デザイン科３年　　島津 かおり

最優秀作

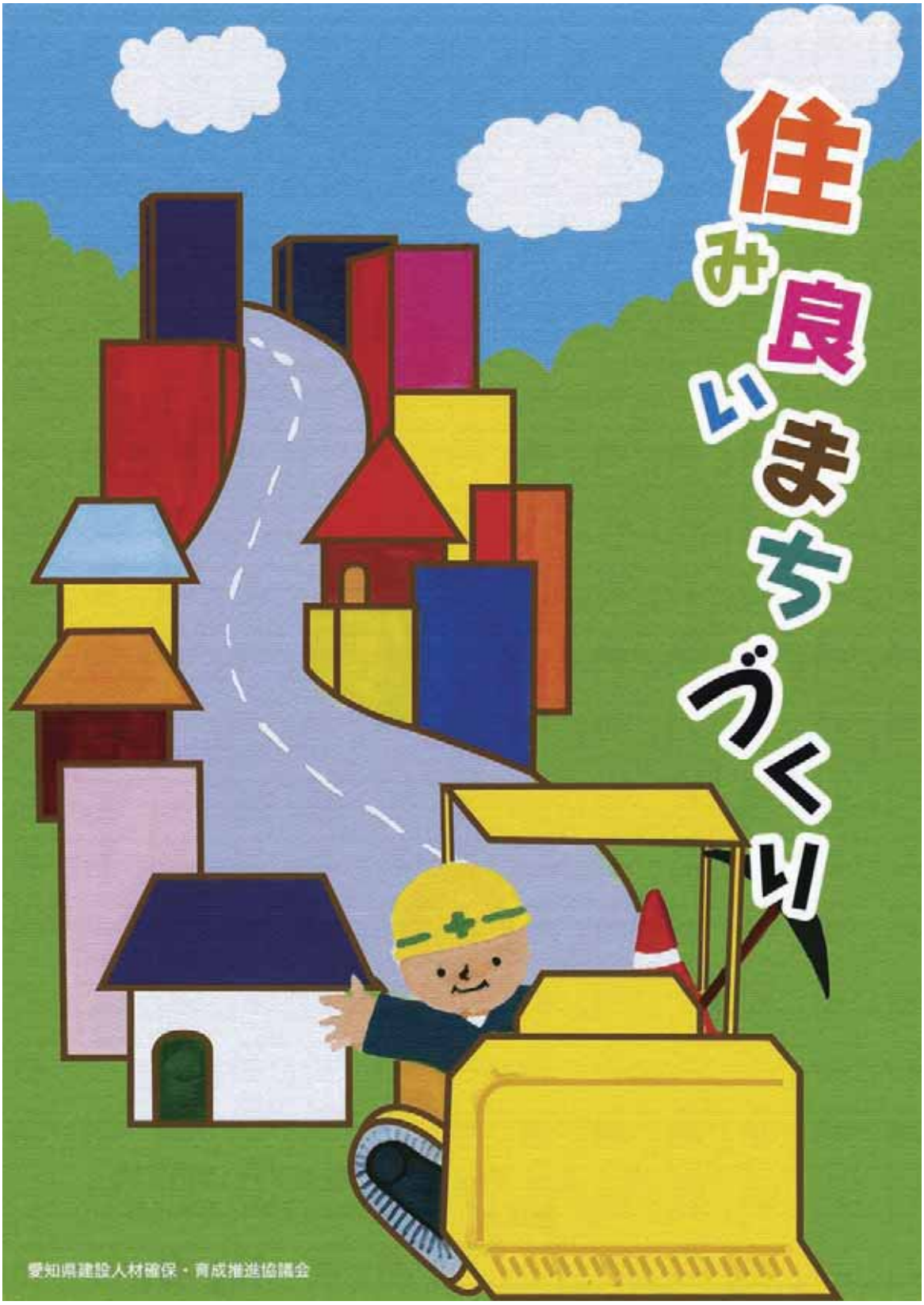
ひらけ新しい未来

あいち造形デザイン専門学校　グラフィックデザイン科1年　　橋本 亜美

優秀作

住み良いまちづくり

あいち造形デザイン専門学校　グラフィックデザイン科1年　　加藤 祥衣



優秀作

夢いっぱいの町！！

あいち造形デザイン専門学校　グラフィックデザイン科1年　　大石 知美

優秀作

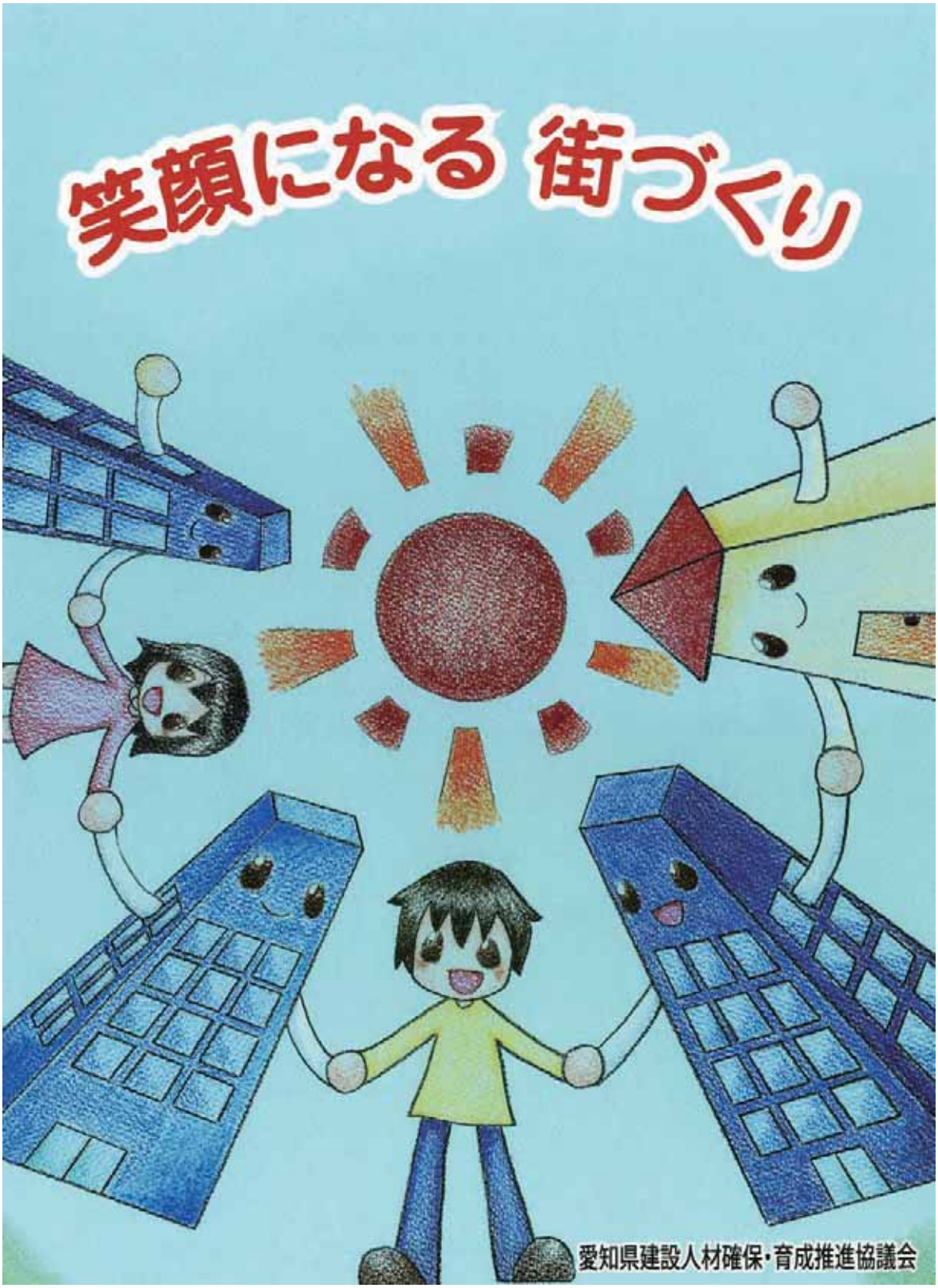
未来を建てる大仕事

あいち造形デザイン専門学校　グラフィックデザイン科1年　北村 実玖

佳　作

笑顔になる街づくり

あいち造形デザイン専門学校　グラフィックデザイン科1年　村木 沙朱



佳　作

いまつくっているのは、きみのまち。

あいち造形デザイン専門学校　研究科1年　　庭野 雄太

佳　作

俺に、バトンを。

東海工業専門学校　インテリアデザイン科1年　尾関 美友紀

応募者一覧

作文の部

愛知県立半田工業高等学校
建築科 3年 播磨 菜穂
〃 2年 藤井千保子
土木科 3年 弓矢 祐司
〃 3年 西谷 健司
〃 3年 大濱 元

愛知県立岡崎工業高等学校
土木科 3年 山田 太志
〃 3年 四元 弘樹
〃 3年 酒井 良輔
〃 3年 小倉 巧暉
〃 3年 村松 佳樹
〃 3年 大場 裕斗
〃 3年 中島 光司
〃 3年 東垂水大輝
〃 3年 附柴 徳嵩
〃 3年 國本 真義

愛知県立豊橋工業高等学校
建築科 3年 梅村 武弥
〃 3年 金田 成晃
〃 3年 近藤 大介
〃 3年 陶山 明人
〃 3年 中野 竜也
〃 3年 夏目 俊樹
〃 3年 榮留 和宏
〃 3年 村松 尚哉
〃 3年 藤城 裕一
〃 3年 星野 剛徳

名古屋市立工芸高等学校
都市システム科 2年 石原 聖平
〃 2年 荒川 翔太

愛知県立猿投農林高等学校
環境デザイン科 2年 近藤 真美
〃 2年 近藤 実希

愛知県立稲沢高等学校
農業土木科 2年 伴野 太亮

東海工業専門学校 金山校
建築工学科 1年 加茂 英
〃 1年 宮川 昴
〃 1年 金子 麻希
〃 1年 水谷 由里
〃 1年 杉山 奈美
〃 1年 清水 佑真
〃 1年 浅野 拓也
〃 1年 馬場 孝行
〃 1年 吉澤 勇成
〃 1年 星野 浩史
〃 1年 川澄 芽衣
〃 1年 池田 裕樹
〃 1年 鈴木祐太郎
〃 1年 近藤 克宏
〃 1年 松下 香織
〃 1年 杉浦 一輝
〃 1年 西村 泰毅
大工技術科 1年 川島 徹哉
〃 1年 柴田 拓磨
〃 1年 二宮 将寿

ポスターの部

高校生部門

愛知県立岡崎工業高等学校
機械デザイン科 2年 酒井亜理紗

愛知県立愛知工業高等学校
デザイン科 3年 島津かおり
〃 3年 平林 美佳
〃 3年 武田志おり
〃 3年 森 美樹

愛知県立半田工業高等学校
建築科 2年 竹内 裕也
〃 2年 小坂 悟生
〃 2年 家田 柾也

愛知県立鶴城丘高等学校
環境デザイン系列 3年 稲吉 亮太
〃 3年 木村 昭太
〃 3年 颯田 光正
〃 3年 鳥居 あい
〃 3年 濱島 哲哉
〃 3年 船瀬 賢太
〃 3年 水鳥翔一朗
〃 3年 森島 麻衣
〃 3年 榎本真衣果
〃 3年 大野 敬子
〃 3年 神谷 謙人
〃 3年 近藤 聖祥
〃 3年 杉本翔太郎
〃 3年 角倉 拓磨
〃 3年 稲垣 恵
〃 3年 岡田 亮祐
〃 3年 小嶋 和史
〃 3年 杉山 裕紀
〃 3年 竹内 俊人
〃 3年 中根 望
〃 3年 星山 和志
〃 3年 荒木 貴志
〃 3年 伊藤 絵美
〃 3年 金村 麻里
〃 3年 黒柳 瑞季
〃 3年 手島 裕一
〃 3年 永田 温喜
〃 3年 中根 拓郎
〃 3年 石田 梨沙
〃 3年 伊藤 大地
〃 3年 小笠原一磨
〃 3年 榊原 啓太
〃 3年 杉浦 晃平
〃 3年 外山 剛健
〃 3年 永田 悦子
〃 3年 福田 夏生

専門学校生部門

東海工業専門学校
インテリアデザイン科 1年 尾関美友紀

あいち造形デザイン専門学校
研究科 1年 庭野 雄太

東海工業専門学校 金山校
グラフィックデザイン科 1年 北村 実玖
〃 1年 大石 知美
〃 1年 橋本 亜美
〃 1年 加藤 祥衣
〃 1年 村木 沙朱

（順不同）